

2016年4月10日「常に喜び、常に祈り、そして感謝しよう」石川祐司教会長

<訓読のみ言>

『天聖經』

第九篇 家庭教会と氏族的メシヤ 第三章 教会長の道

第六節 カイン・アベルの摂理

19 蕩滅の道は、誰が行くのでしょうか。カインが行くものではありません。アベルが行かなければなりません。涙を流すにしても、先に流さなければならず、おなかやすくにしても、先にすかなければならず、悪口を浴びるにしても、先に浴びなければならず、むち打たれるにしても、先に打たれなければなりません。そのように蕩滅の道を行くのです。一人の人が入ってきたとすれば、その人を導いていけるように責任をもたなければなりません。夜を徹してその人の過去を聞いてあげ、父のような立場で相談に乗ってあげ、涙を流してあげ、祈ってあげなければなりません。帰るときには、心配でその家の前まで連れて行ってあげ、また朝になれば心配になり、その家の前に行って待っては会う、このようなことができなければなりません。結局は、誰よりも人を好きになる人間にならなければならないのです。カインを一番好きになる人にならなければなりません。そうしてこそ、その人が「私」の後ろにしっかりとついてくるのです。蕩滅の道についてくるのです。そのようにして蕩滅の道を行かなければなりません。

21 皆さんは、今まで神様とサタンの戦法を知らずにいました。打たれて復帰してくる道が、アベルの行く道です。サタンは先に打つので、勝ったように見えますが、あとになると自分のもっている善のものまでプラスして返さなければならなくなるのです。悪の側が相手を打って占領したとしても、占領したそれが栄えるのではなく、悪の側にある善のものまで奪われるのです。言い換えれば、神様は餅をついて渡しておき、それを取り戻すときには粉をまぶした餅が戻ってくるのと同じ役事をなさるのです。一時は悪が栄え、善を打つ立場に立ちますが、そうかといって天が減びるものではありません。

22 統一教会の食口は、原理を知っているので、アベルの立場に立っています。そのため、皆さんはまず、サタンに対抗して闘うことができなければならず、サタン世界から自分を分立できなければなりません。これは皆さんが、神様の愛の圏内に入ってこなければならぬことを意味します。しかし、これがすべてではありません。そのときから皆さんは、神様の悲しみの心情と、サタン世界に縛られている兄弟姉妹の悲しみの心情を解くために、自らを喜んで犠牲にしようとしなければなりません。皆さんの生命、皆さんの犠牲を代価にして、サタン世界から彼らを喜んで救い出そうとしなければならぬのです。アベルが犠牲になるところから、復帰摂理は進展するのです。これが、皆さんの覚えるべき公式です。これが、神様の摂理の、一項目なのです。